

<見積根拠資料の作成方法>(記載例を併せてご参照ください)

- 閲覧いただく仕様書は、「工事区分」「工種」「種別」の別に記載されています。
- 総合評価方式で行う入札には、「見積根拠資料」を提出することが必要です。
- 「見積根拠資料」の作成においては、「工事区分」をレベル1、「工種」をレベル2、「種別」をレベル3、とそれぞれ区分しています。
- 見積根拠資料に記載が必要な工種等
「工事区分」、「工種」及び「種別」(レベル1からレベル3)で作成してください。

(例)『設計+測量』 ※実際の作成にあたっては、必ず仕様書等を確認してください。

【閲覧仕様書の「設計内訳書」(部分)】

工事番号:〇〇-〇

工事名		〇〇〇〇		事業区分		工事区分	
工事区分・工種・種別			単位	数量	単価	金額	摘要
解析等調査			式	1	閲覧用仕様書にはこの欄には記載がありません		レベル1
直接業務費			式	1			レベル2
解析等調査			式	1			レベル3
直接業務費			式	1			
技術経費			式	1			
諸経費			式	1			
間接業務費			式	1			
業務価格			式	1			
一般調査費			式	1			レベル1
直接調査費			式	1			レベル2
機械ボーリング			式	1			レベル3
サウディング及び原位置試験			式	1			レベル3
解析等調査			式	1			レベル3
印刷製本費(率)			式	1			
直接調査費			式	1			
間接調査			式	1			レベル1
間接調査費			式	1			レベル2
運搬費			式	1			レベル3
準備費			式	1			レベル3
仮設費			式	1			レベル3
間接調査費			式	1			
諸経費			式	1			
一般調査業務費			式	1			
業務価格			式	1			
消費税相当額			式	1			
事業費			式	1			

- ① 見積根拠資料(委託業務費内訳書)の「工事区分・工種・種別」の欄には上の表の「レベル1」、「レベル2」及び「レベル3」の工種等をすべて記載してください。
- ② 見積根拠資料(委託業務費内訳書)の「工事区分・工種・種別」欄に記載されている工事区分(レベル1)の見積金額が、その工事区分に含まれる各工種(レベル2)の見積金額の合計と一致していることを確認してください(一致していなければ失格となります)。
- ③ 見積根拠資料(委託業務費内訳書)の「工事区分・工種・種別」欄に記載されている工種(レベル2)の見積金額が、その工種に含まれる各種別(レベル3)の見積金額の合計と一致していることを確認してください(一致していなければ失格となります)。
- ④ 見積根拠資料(委託業務費内訳書)の「入札書又は見積書記載金額」欄に記載される金額が「入札書」に記載される額と一致していることを確認してください(一致していなければ失格となります)。
- ⑤ 記載事項が1枚の様式に収まらない場合は、適宜様式を追加して記載してください。